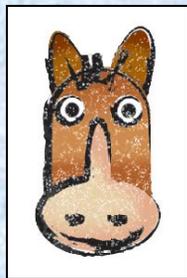


# 馬の耳

どんな良い話を聞いても、何も行動しなかった私が「馬」ではなく「人間」である証明をする為、勉強会等で学んだことをまとめ、この「馬の耳」を作ることにしました。お世話になっている皆様のために、少しでもお役に立てればと思います。



発行日 2011年5月1日

発行元 (有)沼津電話工事

スマイルワン

小野博文

〒410-0022 静岡県沼津市大岡3916-8

055-921-1551 tel

055-922-1144 fax

<http://www.net-ndk.co.jp/>

[ono@net-ndk.co.jp](mailto:ono@net-ndk.co.jp)

## 【行ってきました。】

前月号に書かせて頂きましたが、今回、被災地へ向かう機会を得て、石巻にある支援センター等4か所に物資を、気仙沼高校の避難所の方々に“ちょっぴりの笑顔”を届けに、仲間7人で行って来ました。

周りからは、「お前が今やるべき事は、被災地に行くことなのか？」という声も聞こえてきましたが、どうしても早いうちに一度、何か役に立ちたいという気持ちがあり、周りの声を振り切って現地へ向かったわけです。

被災から1か月半が経ち、状況はずいぶん良くなっているのでは？と思っていたのですが、とてもそんなことはなく、道路わきにはすごい量の瓦礫の山、いたるところに汚泥は溜まり、いまだ信号機がついていない所も存在していました。

あまりにも広域で、多大な被害をもたらした災害だからでしょうか？ それとも、他に問題があるのでしょうか…。とにかく日常生活が正常化するまでには、とてつもない時間がかかりそうです。

今回、私たち班の搬入した物資は、軽トラック2台、ミニコンボ（油圧ショベル）1台、それからノルウェイから届いた液体ミルク（乳児用）、マスクなど、どれも現地で本当に喜んでいただきました。

私は、最後に立ち寄った避難所で、「笑い」について話をしてほしいと頼まれていたのですが、実際に現地の避難所に着いてみて、「今の時点では、理屈も講釈も、まったく意味がない」という雰囲気を感じました。そこで、話などはまったくせず、手品をすることにしました。

そうです！ 私はある時は“謎の運転手” ある時は“笑い療法士” そしてある時は“電話屋のおじさん”。しかし、実は“おちゃらけ手品師”にもなるのです。準備して行って良かったあ～（汗）

手品終了後、ひとりの年配の女性が私のところに寄ってきて、「今日は、ありがとうございます。やっぱり笑って大切ですよ！ ここは退屈で笑う事も少ないです。」と話してくださいました。避難所にいるということは、住むところを失った方なんですよね。それでも笑いたい、笑いが大切だと言ってくれるんです。これからも物資は必要でしょうが、心のケア、笑いや癒しも同じぐらい必要なのかもしれないと思いながら帰って参りました。

## 沼津経営塾開催日

5月12日(木)市民文化センター 第四会議室 PM7:00より

## 【年下の男の子】

キャンディーズのスーちゃんが55歳で亡くなってしまいました。ずいぶん長いこと闘病生活をしていたのです。テレビの画面からはまったく想像もできませんでした。ご冥福をお祈りいたします。

石原裕次郎や、美空ひばりのような大スターが亡くなった時は、「ああ、昭和が終わっていくなあ」と思いましたが、スーちゃんとなると、私の青春時代のアイドルですから、現実的で、自分の青春時代が終わっていくようで、とても寂しいです。

私のアイドルの歴史は、小学校2年生の時、床屋さん置いてあった少年ジャンプの“日吉ミミ”の写真に出会った時から始まります。本当に衝撃を受けました。世の中にこんなに綺麗な女性がいるのかと…。切り取って持って帰りたい衝動に駆られた事を、今でも思い出します。当時、飼いだめた猫には“ミミ”という名前をつけたほどです。

今思うと、その時の私、どうかしていました。（汗）

その後は正気を取り戻し（笑）、キャンディーズのスーちゃん、百恵ちゃん、ピンクレディーのミーちゃんと、興味は普通のアイドル(?)へ戻ってきましたが、その後また、どうしちゃったのか？

“八神純子”に心を奪われ、彼女がアメリカに旅立った時には涙しました…

その時の私も、どうかしていました。（汗）

スーちゃんの「年下の男の子」だった私、年上のスーちゃんは、まだ20歳そこそこだったんですね。今のうちの娘と同じくらいだったわけです。とても不思議です。月日の経つのは恐ろしいですね。

ところで、スーちゃんの最後の肉声メッセージ、聞かれましたか？ 弱いながらも、芸能人として最後の最後まで、「少しでも役に立ちたい」というプロ根性を感じましたし、私には、「時間を大切にしっかり生きてほしい」というメッセージとして伝わってきました。私も今年48歳、残り時間は多く無さそうです。一度きりの人生、“年上の女の子”から最後に頂いたメッセージを胸に、一日一日を大切に、自分に与えられた使命に、情熱をもって挑戦し、人の心に残るような人間になっていきたいと強く思いました。

## 【ラジオのチカラ】

昔は「一家に一台」が常識だったラジオも、だんだん姿を消しつつあり、チューニングの方法を知らない若者も増えてきているようです。しかし、災害等による停電時、乾電池で聴けるラジオが見直されてきています。

また、ネットを使って聴けるラジオ(radiko)等、ラジオを聴く新しいツールも増えてきています。



お馬様の  
今月のお言葉

春

は

は

は

い

る

る